

『歴史総合，日本史探究』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前文

新課程の科目として2回目となる共通テスト科目『歴史総合，日本史探究』が実施された。歴史科目としては「歴史総合」『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』の2科目・1出題範囲があり，今年度は『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」第1問が『歴史総合，日本史探究』の，第2問が『歴史総合，世界史探究』の，それぞれ第1問となった。

歴史総合は，近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え，資料を活用しながら歴史の学び方を習得し，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察，構想する科目として設置され，日本史探究は，歴史総合を踏まえ，従前の日本史A，日本史Bのねらいを発展的に継承しつつ，我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め，各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し，歴史に見られる課題を把握し，地域や日本，世界の歴史の関わりを踏まえ，現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養うことをねらいとする科目として設置された。

令和8年度の『歴史総合，日本史探究』の受験者数は124,431人，平均点は62.29点であった。なお，評価に当たっては，15ページに記載の8項目の観点により，総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

第1問 『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第1問と同じ。

第2問 日本の漁業の歴史に関して生徒が調べた内容を基に，縄文時代から近世までの社会，経済，自然環境について出題された。

問1 江戸時代の地引網漁を描いた図に関して述べた四文から最も適当なものを選択する問題。

地引網漁の発達と干鰯の需要の関係など江戸時代の社会経済に関する理解が求められた。

問2 網元と網子の関係について整理した図中の三つの空欄に当てはまる語句の組合せを選択する問題。漁業の仕組みについてまとめたノートの内容から情報を正確に読み取る技能が求められた。

問3 錘についてまとめたノートや古墳時代の地引網漁の復元図に関して述べた四文から，適当でないものを選択する問題。図やノートから情報を読み取り，縄文時代の生活に関する知識と結び付けて，思考・判断する力が求められた。

問4 鎌倉時代の荘園に関する理解が求められた問題。年貢物の報告に関する資料から，地頭による横領が行われていた時代背景を読み取り，荘園に関する知識と結び付けて判断する思考力が求められた。

問5 縄文時代の自然環境，江戸時代の漁業に関して述べた二文を読み，正誤の組合せを選択する問題。縄文時代の自然環境に関する知識と大問全体から漁業の現場における階層性を読み取り，思考・判断する力が求められた。

第3問 絵画資料の読み取りを行う学習場面における会話文を基に，飛鳥時代から平安時代までの政治・文化について出題された。複数の正解が存在する連動型の出題が初めて見られた。

問1 会話文の空欄に入る語句の組合せを選択する問題。会話文と表の情報を統合して思考する力と古代の官職についての知識が求められた。資料を根拠に仮説を立てる学習を意識した

出題であり、会話文の内容と図・表の情報を基に、語句の妥当性を検証する思考力・判断力・表現力等が求められた。

問2 藤原北家台頭の歴史的背景に関する理解を確認する問題。資料から情報を読み取り、平安時代前半の藤原氏による他氏排斥についての知識と結び付けて判断することが求められた。

問3 古代における政治の転換の契機になった出来事を選択した上で、その出来事が転換の契機であると考えられる理由として最も適当なものを選択する問題。『歴史総合、日本史探究』で初めて出題された連動型の設問である。飛鳥時代から平安時代にかけての政治に関する理解が求められた。

問4 絵巻物と詞書に関する二つの資料について考察したメモの正誤の組合せを選択する問題。会話文及び資料から情報を読み取る技能と読み取った情報と知識を関連させて考察する思考力・判断力・表現力等が求められた。伴大納言絵巻詞書の原文を読解した上で、資料の立場性を踏まえて思考・判断することを求めた姿勢は興味深く、良問であると感じた。

問5 文字資料と絵画資料を活用して歴史を考えた際に生じた疑問とそれに対する考察について正しい組合せを選択する問題。古事記・日本書紀が編纂された背景から似絵の文化的特色まで幅広い年代の文化と社会の関わりについての知識が求められた。

第4問 中世における女性と政治をテーマにした探究活動の場面を基に、鎌倉時代と室町時代を中心とした政治、社会経済について出題された。

問1 北条政子の評価に関する二つの資料について述べた四文から最も適当なものを選択する問題。鎌倉時代の基本的な知識と資料から情報を読み取り思考・判断する力が求められた。複数の資料の立場性を問う設問ではあったが、現代語訳されていたこともあり正答率は80%を上回っている。

問2 日野富子に関する資料と歴史的評価の変化に関してまとめたノートについて述べた二文を読み、正誤の組合せを選択する問題。日野富子の歴史的評価がどのように変化したのかを資料から読み取る技能と室町期の戦乱に関する知識が求められた。

問3 八条院について議論した内容をまとめたノートの空欄に当てはまる文の組合せを選択する問題。院の所領と治承・寿永の乱に関する理解が求められた。荘園に関する知識が必要なことに加えて、空欄の前後の文脈からどのような主張に基づいた考察であるかを読み取り、それを踏まえて解答することが求められた。正答率は32.85%であった。

問4 院政期の政治や荘園に関して述べた文から正文の組合せを選択する問題。院政期の荘園についての正確な知識が求められたこともあり正答率は36.02%であった。

問5 女性が政治に関わることに對する江戸時代の考え方についてまとめたノートの内容に関して述べた四文を読み、最も適当なものを選択する問題。資料から正確に情報を読み取る技能とその情報を知識と結び付けて思考・判断する力が求められた。

第5問 近世の城郭に関する調べ学習の場面を基に、安土桃山時代から江戸時代までを中心とした政治、社会、文化について出題された。

問1 中世から近世への移行期の政治や社会について述べた四文を読み、最も適当なものを選択する問題。中世から近世への時代の転換について、村落・都市の支配の変化、ヨーロッパ諸国との交流の影響などを踏まえた概念的な理解が求められた。

問2 桃山文化の特徴とその具体的な内容について述べた文の組合せを選択する問題。近世の文化についての基本的な知識が求められた。

問3 一国一城令に関する資料から正確に情報を読み取り、その情報と江戸時代初期の法令に

関する知識を統合する思考力・判断力・表現力等が求められた問題。大名家に伝来した文書が原文で提示されており、丁寧な読解に基づいて資料の性格を読み取ることが求められた。内容理解を踏まえて資料の立場性を考察させる良問である。

問4 城下町概念図に関して述べた四文を読み、正文の組合せを選択する問題。資料から正確に情報を読み取る技能とともに、その情報と近世の城下町に関わる概念的な理解を統合する思考力・判断力・表現力等が求められた。

問5 城や館について述べた四文を読み、適当でないものを選択する問題。飛鳥時代から江戸時代にかけて幅広い年代の城や館に関する基本的な知識が求められた。

第6問 近現代の日本における政治的リーダーシップについての会話文を基に、明治期から平成期までの政治、外交について出題された。

問1 国際平和協力法（PKO協力法）成立の背景について述べた二文の正誤の組合せを選択する問題。1990年代の政治と国際関係を関連付けた理解が求められた。

問2 内閣や政党に関する二つの風刺漫画と高度経済成長期の出来事について述べた四文を読み、正文の組合せを選択する問題。資料から情報を読み取って考察し、1950年代の政治や高度経済成長期の環境問題に関する知識と統合して思考・判断する力が求められた。

問3 首相と軍部の対立事例に関する三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。軍部をめぐる昭和前期の関係性の推移などの正しい知識が求められた。今回の試験において唯一の時代整序問題であった。

問4 『原敬日記』についてまとめたノート中の空欄に適する文とノートに関して述べた文の組合せとして最も適当なものを選択する問題。ノート中の疑問が何を指しているのかを読み取って、その文脈に合わせた知識を用いて思考・判断する力が求められた。

問5 首相・内閣と、組織・人物との関わりについて述べた四文を読み、最も適当なものを選択する問題。近現代を通観した出題がなされ、明治期から戦後史まで幅広い年代の政治に関する理解が求められた。

3 分量・程度

学習指導要領の趣旨を踏まえ、知識及び技能に加えて思考力・判断力・表現力等を問う問題が今年度も多く出題された。60分の試験時間に対して、大問数は昨年度と同じ6問であったが、小問数は1問増の34問であった。ただし、これは **16**、**17** が連動したものであったからであり、実質的には、昨年度と同じ設問数である。政治史、外交史、社会史、経済史、文化史等各分野の基本的事項の正確な理解を問うものが中心であり、分量・程度とも適切であった。

「歴史総合」分野については、災害に関わる歴史的な事象を多様な資料を基に多面的・多角的に考察、構想する過程が重視されており、知識・技能と思考力・判断力・表現力等を統合させて解答する出題の工夫を感じさせる問題であった。**3** や **5** は個別の事実等に関する知識を問う設問だが、問われている時代状況を理解するためには基礎的なものであり、難易度は高くないが、**3** は正答率が28.48%であった。

昨年度に引き続き、受験者にとって初見と思われる資料を読み取り、資料やノート等から得られる情報と知識を関連付けながら、検証・考察する力が求められた。提示された資料は、昨年度と同様の文字資料や絵画、表、その他に新たにパネルや概念図、復元図など多種多様であり、量・質とも充実していた。文字資料は7点のうち5点は現代語訳されたものであり、原文によるものは昨年度よりも減少した。

4 表現・形式

問題文の表現については、極端に難解なものではなく、資料が現代語訳や書き下し文に変更されるなどの配慮がなされ、注釈もバランスよく付されており、平均点を高める一因となったと思われる。人名や事件名、制度の名称など、歴史用語をなるべく使用せずに、深い理解を伴った知識を問うような表現上の工夫がなされていた。また、二つの資料が原文で示されていたが、いずれも文献史料の読解力を基に思考するという出題の意図を感じた。現代語訳された文章を単純に読み取るだけのものや、難解な文献史料の解読に終始するものではなく、歴史的な見方・考え方を働かせて読解する原文資料に基づく設問は歓迎したい。

場面設定については、全ての大問において、高校生の具体的な学習活動であった。生徒が図を見て推測する「仮説を立てる」学習活動¹⁴や、生徒の疑問とそれに対する考察¹⁹、時代を通観して考察した内容を問う設問³⁴など、日本史探究の探究的な学習活動を想定したと思われる設問があった。また、歴史資料の保全活動に関する設問⁸や、女性の政治への関与を題材とした設問²⁴など、現代的な諸課題にもつながるテーマも出題され、歴史的な事象と現代とを結び付ける歴史学習の必要性の示唆を受けた。

出題形式については、正文又は誤文を選択する問題や二文の組合せを判断する問題、年代の整序を判断する問題など、多様であった。特に正文の組合せを問うものが多く、昨年度は12問であったが、今年度は20問と増加した。一方で年代の整序・選択する問題は昨年度3問だったが、今年度は1問のみであった。新傾向としては、¹⁶、¹⁷のような解答が連動する設問が『歴史総合、日本史探究』では初めて出題された。これは政治の転換の契機を一つ選び、その理由を解答するものであるが、日本史探究における「諸事象の解釈や画期を表現する学習」の成果を求めるものと考えられる。また、資料の性格を問う²⁷も新しい形式であり、歴史資料の特性を踏まえて多面的・多角的に考察するという、学習指導要領で示されている学習活動を想定していると思われる。一方で、²²は正答率が低く、探究的な学びの過程という設定ではあったが、受験者が設問の意図を読み取りづらかったのではないと思われる。出題形式として、様々な学習場面を取り入れることは、高等学校の授業改善に大いに示唆を与えるものであり、今後も期待しているが、形式が先立ち、受験者に求める資質・能力が後追いにならないような工夫をお願いしたい。

5 まとめ（総括的な評価）

全体として、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」の観点を中心に発揮させて解答する良問が多く、受験者にとって解答しやすい問題であった。

最後に今後の共通テストの作題について、幾つかのお願いを述べたい。一つ目は文字量についてである。今年度も設問文や資料の説明が具体的かつ丁寧であり、受験者が正答を導き出しやすくする工夫がみられた。しかしその一方で、全体的な文字量が増えることにもなり、受験者にとって解答時間にかかる負担が増える危険性を含む。問題の正確性を担保するためには、丁寧な説明等が必要であるが、文章表現や資料の情報量を精査して、受験者が時間的な余裕をもって、解答できる出題上の工夫をお願いしたい。二つ目は、⁴、¹⁰のような読解力があれば解答できると思われる設問についてである。¹⁰は素材が歴史的な事象であるが、⁴は歴史よりも地理的な要素が強いと思われる。資料から情報を読み取る技能は、歴史総合、日本史探究において求められているが、学習指導要領では「歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能」と示されている。両設問ともに全く歴史に関する情報を扱っていないというわけではないが、歴史科目の問題とするならば、もう少し工夫の余地があると思われる。最後に第1問の「歴史総合」分野において、どの

程度個別の事実等に関する知識が問われるのかという，学校現場で注目される点である。歴史総合の授業は，高等学校の実情に応じて，使用する教材が多様であるため，個別の事実等に関する知識の扱いも高等学校によって差があると思われる。個別の事実等に関する知識の出題に関しては，些末なものではなく，概念的な理解に必要な基本的なものを問うようお願いしたい。個別的知識の習得を重視するという，従来の歴史学習に対する偏見に歴史総合をさらさないためにも，共通テストの問題は学校現場に大きな影響を与えるものとする。

今年度の試験は，歴史の学習が知識の習得のみならず，歴史的事象に関する資料読解の技能や思考力・判断力・表現力等の育成を目指すものであるということを示唆している。最後に，共通テスト問題作成に関係した方々の多大な御尽力に，心から敬意を表したい。